

独自技術で高耐久性

ステンレス製の床束開発

小林シャーリング工業

小林シャーリング工業 良信社長、06・675 プレスによる独自のカシメ技術（特許出願中）を所（大阪市生野区、小林一7・1812）は、金型

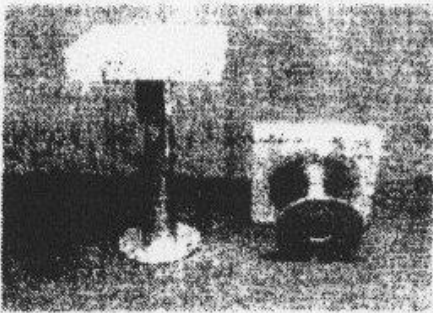
平成18年1月31日
日刊工業新聞

使い、強度と耐久性に優れたステンレス製の床束を開発した。価格は1200円から1950円。木造住宅のリフォーム業者、工務店向けに、初年度1000万円の売り上げを見込む。

床束は木造住宅の基礎となる大引を支える保持具。既存品は素材がアルミ、プラスチック、木など。構造的にはネジで高さを調節する製品もあるが、いずれも耐久性に課題があるという。そこで金型プレスによる独自のカシメ技術で強度と耐久性を確保した。本業のフレキシブル配管の継ぎ手

製造で培った技術を活用した。

ステンレスパイプの両端にステンレスプレートが強固に一体化して成形することに成功した。床束の本体部をすべてステンレスにすることで、湿気に強く、強度と耐久性を持つ製品に仕上げた。長さ81ミリの40ミリの33サイズをそろえ、床束の高さを微調整するため0・6ミリから3・0ミリまで4サイズの付属プレートも用意した。



開発したステンレス製の床束